

傾斜地茶園における茶株面のジベレリン散布と
上下別整枝による一番茶芽の芽揃いについて

岩井正直・原井則之・常包一明・佐々木善隆

傾斜地茶園においては畦の方向が等高線の場合は、株面の上下面で一番茶芽の生育に不揃いが見られ、その生育差による収量や品質の低下が生じやすい。そこで、ジベレリンの葉面散布および秋期から春期にかけての整枝による、一番茶芽の生育均斉化とそれが収量及び品質に及ぼす影響を検討した。

1. 茶株面の下側面にジベレリンを散布することにより、一番茶芽の生育が早まり、芽数と百芽重及び出開度が増加した。その結果、上下面の差が小さくなることで芽揃いは良好となったが、収量や荒茶の品質評価には反映されなかった。

2. 上側面の整枝時期を下側面より 15 日から 30 日遅らせることにより、上側面の芽数と百芽重、出開度が減少した。その結果、上下面の差が小さくなることで芽揃いは良好になり、荒茶品質も外観の評価が高くなった。

収量と外観品質を総合的に判断した結果、上側面と下側面の整枝時期の差の最適日数は、15 日であった。

キーワード:一番茶,傾斜地茶園,整枝,ジベレリン,芽揃い